

やはら 谷原のガスタンク



ねりま しりょうかん
「練馬わがまち資料館」より
じゅうしょ ねりまくやはら
（住所：練馬区谷原1-1）

ただ な とうきょう ねりませいあつじょ
・正しいよび名は「東京ガス練馬整圧所」です。

しょうわ ねんだい ねん ねん ねりまく ひと いえ
・昭和30年代（1955年ころから10年くらい）の練馬区は、きゅうにすむ人がふえて家
もたくさんだったので、水道や下水道、ガスなどをひくのがおいつきませんでした。
しょうわ ねん
1959（昭和34）年にできたガスタンクは、そのころまずガスをいきわたらせるためにつ
くられたものです。

き き
・さいしょは2基でしたが、そのあとふえて6基になっています。

にほん せたがやく め おおがたきゅうけい おお まる
・日本では世田谷区について2ばん目につくられた、大型球形（大きな丸いかたち）のガ
スタやはらンクでした。できあがったあとは「谷原のガスタンク」とよばれて、練馬区の名物の
ようになっています。ねりまく めいぶつ

ガスタンクの正しいよび名は「ガスホルダー」といいます。球体は鋼板（鉄をさらに強くした金ぞくの板）でできていて、これは工場で作られ送られてきたガスを一時的にためておくためのものです。ガスは真夜中から明け方のあまり使われない時間にためておき、朝や夕方の使用量がふえる時間帯になったら送り出すようにして、工場のふたんをへらしています。ガスホルダーが今のような球形になったのは、1956（昭和31）年6月に東京ガス世田谷整圧所（東京都世田谷区粕谷1丁目）として2基が設置されてからのことで、それまでは大きな茶づつのような形をしていて、周囲が鉄のわくでおおわれた「有水式ガスホルダー」が使用されていました。これは、円とう形のタンクにガスがいっぱいたまると、ふたの高さが上まであがって、逆に少なくなると下がるしくみになっていました。

「谷原のガスタンク」（正しくは「東京ガス練馬整圧所」）が設置されたのは1959（昭和34）年で、最初は2基でしたが、その後は6基にふえています。練馬のシンボルのようになっている、1970年代には当時人気だった特撮番組「帰ってきたウルトラマン」「仮面ライダー」の背景に登場したこともあります。



練馬区「ねりまっぶ」より
【参考にした文献】

- ・『練馬区史 現勢編』東京都練馬区 1981年
- ・『練馬区独立60周年記念 ねりま60』練馬区 2007年
- ・『練馬ふるさと事典』東京堂出版 2011年

監修／葛城明彦（郷土史家）

編集・発行／練馬区立石神井図書館、大泉図書館、関町図書館、貫井図書館、南田中図書館

発行日／令和5年3月